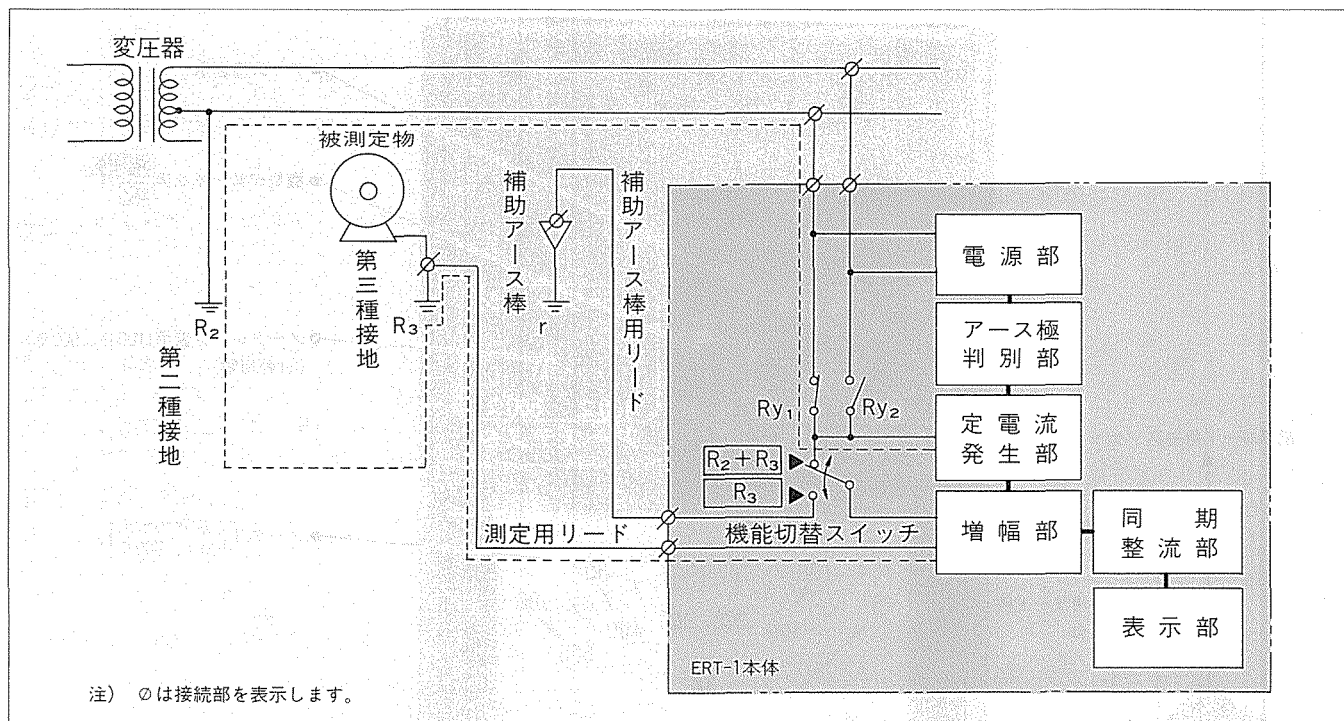


■動作概要

- 1 測定用リード線を被測定物のアース極に接続すると、アース極判別部が電源回路の第二種接地線側を自動的に判別し内部 R_{y1} 又は R_{y2} (リレー) で定電流発生部とこのアース極を接続します。
- 2 定電流発生部で電源周波数の1/2の周波数を基本波とする方形波を発生し、方形波はアース極線→第二種接地→大地→第三種接地→本器測定用リード線の順で増幅部に加えられます。
- 3 機能切替スイッチが $[R_2+R_3]$ の場合には、第二種接地抵抗値 R_2 と第三種接地抵抗値 R_3 の和に比例した電位差を増幅部で増幅します。
- 4 機能切替スイッチが $[R_3]$ の場合には、補助アース棒用リード線より補助アース点と測定用リード線間の電位差、すなわち第三種接地抵抗だけに比例した電位差を増幅します。
この時、増幅器の入力インピーダンスを非常に高くしていますので、補助接地抵抗値 r が $50K\Omega$ 以下であるなら誤差がでないようにしています。
- 5 増幅信号のうち抵抗分だけを同期整流部で取り出します。これは地電圧や対地容量による影響を除去するためです。
- 6 同期整流から取出した信号は、その信号の大きさにより自動的に2つのレンジに切替表示します。

■ブロック図



■結線方法

